

3月市会報告  
NO: 3

# 日本共産党 川西市議団 ニュース

発行 日本共産党  
川西市議団  
連絡先  
市役所控室  
Tel740-1111  
議員団直通  
fax759-1811

議員連絡先  
土谷一郎  
Tel\*fax793-2134  
黒田みち  
Tel\*fax790-3055  
住田由之輔  
Tel\*fax759-4541  
大塚寿夫  
Tel\*fax793-2243

## 総括質問 黒田みち議員

3月定例会で黒田みち議員は、「2010（H22）年度の予算編成にあたっての大塩市長の施政方針」に対して「総括質問」を行いました。

- 1 「住民の役に立つ」
  - 2 「税金は市民のために」
  - 3 「市民の要望を国に」
- 市役所の3つの役割

### 中央北開発は凍結を

昨年12月議会で請願を採すでに246億円も注ぎ込  
択した「こどもや障がい者の医んだ「中央北地区」に、さらに  
療費補助の拡充」「入浴サービ100億円も投入して「大型店  
スの継続」などの施策が一步前舗の誘致」を含む「開発」を押  
進、予算化されていることを評し進める計画はただちに中止、  
価しながら、市役所が「市民のまず、市として十分な情報公  
役にたつ所」となり、「住民本開をすること、説明責任を果た  
位の税金の使い方」に徹し、「市すこと、地権者だけでなく、住  
民の立場から国や県に意見を民の声をしっかり聴くことを  
述べる」という自治体としての求めました。

役割を確認、具体的、積極的な 現在の川西市の「財政状況」

施策展開を迫りました。

「自公政権」で進められた極端 響、負担金等の削減、市税収入  
な大企業・大資産家優遇や「自の大幅な減、基金の取り崩しな  
己責任論」「自由競争」の原理 ど予断を許さない状況です。

ではなく、「人間としての当た また、この間、明かにしている  
り前を取り戻す」ため、基礎自 ように、市内の「消費者動向」  
治体として真の元気を取り戻すことを強く延べました。

### 税金は透明、公正に

「税金」の使途は、透明性・公正性を担保することを市として明確にするシステムをつくることを提案しました。

「土地価格の下落」「既存商店の疲弊」など調査した数値や実態を明らかにし、「無謀なごり押し」を追究。

「見通しのない開発」に突き進むこと、更なる「市の借金」を背負いこむべきではないと強く意見をのべました。

### 憲法遵守」の立場で

国のまちがった施策には、市民の安心・安全を確保するため「後期高齢者医療制度」「派遣労働法」「伊丹自衛隊基地内の米軍共同演習場と地位協定」などの問題について、国に明確に意見を述べ、是正させること。

自治体として、国の悪政の防波堤になり、住民を守りきることを求めました。

また、委託料や補助金などの使途も明確にする仕組み作りをし、不正を許さないこと、ムダ使いを許さないことも強く求めました。

### 市民本位のまちづくりを

「市民」は、お客様ではありません。まちづくりの主体、主権者にとらえた「市民参加」のまちづくりを行なうこと。住民への情報公開や説明責任を果たすことを強く延べました。

住民が、理解・納得できる「税金の使い方」が基本であること強く求めました。

議案名	日本共産党	民主市民ク	政雲会	公明党	智政会	自治市民ク	無所属
1 一般会計予算	反対	賛成	賛成	賛成	賛成	賛成	賛成
2 国民健康保険事業特別会計予算	反対	反対	賛成	賛成	賛成	北上・宮坂 反対	賛成
3 老人保健事業特別会計予算	賛成	賛成	賛成	賛成	賛成	賛成	賛成
4 後期高齢者医療事業特別会計予算	反対	賛成	賛成	賛成	賛成	賛成	賛成
5 農業共済事業特別会計予算	賛成	賛成	賛成	賛成	賛成	賛成	賛成
6 介護保険事業特別会計予算	賛成	賛成	賛成	賛成	賛成	賛成	賛成
7 用地先行取得事業特別会計予算	賛成	賛成	賛成	賛成	賛成	賛成	賛成
8 水道事業会計予算	賛成	賛成	賛成	賛成	賛成	賛成	賛成
9 市民病院事業会計予算	賛成	賛成	賛成	賛成	賛成	賛成	賛成
10 市民病院事業会計予算	賛成	賛成	賛成	賛成	賛成	賛成	賛成
11 水道事業会計予算	賛成	賛成	賛成	賛成	賛成	賛成	賛成
請願への態度							
請願名	日本共産党	民主市民ク	政雲会	公明党	智政会	自治市民ク	無所属
後期高齢者医療制度廃止を求める請願	賛成	反対	反対	反対	反対	反対	反対
保険でよりよい歯科医療実現の意見書を求める	賛成	反対	反対	反対	反対	反対	反対
選択的夫婦別姓を認める民法改正に反対する請願	反対	反対	賛成	反対	西山 反対	反対	賛成
人工内耳の補助制度認定を求める請願	賛成	賛成	賛成	賛成	賛成	賛成	賛成
介護保険制度の抜本的な基盤整備を求める意見書	賛成	反対	反対	賛成	反対	賛成	反対

# 特別会計予算審査報告(3会計)

特別会計には、土谷一郎、住田由之輔市会議員が参加、市民のくらし守る立場で発言を行い、最終日討論は住田議員が行い、その討論要旨を中心に3つの事業について報告します。

## 国民健康保険事業特別会計予算：反対

### 国保会計へ一般会計からの繰り入れを増やして加入者の負担軽減を図れ

大きな争点になったのは一般 全国で滞納が445万世帯。会計から特別会計への資金投 資格証発行が31万世帯、保険入のうち、「法定外」資金を3 証が無い世帯が100万世帯 億円も削減し、実質ゼロにした 上っている状況。一方医療給 ことにより、赤字そのものが平 付費も特にこの2年間は大幅 成21年度2億から3億円、2 増の状況。 2年度末には5億から6億円 全体として、医療の皆保険制 になると見込まれ、議論はそこ 度が崩れてきている。すべての 国民が必要とするとき必要な 医療を受けることができるた (討論要旨)

市民のくらしが大変なとき、 国民健康保険税を据え置きに されたことは評価する。 国民健康保険税を据え置きに されたことは評価する。 国民健康保険税を据え置きに されたことは評価する。

しかし議案質疑の中で明らかになった、平成22年度末に 予想される赤字補填の明確な 財源確保ができていないこと は重大。私どもは法定外一般会 計を繰り入れて対応すべきで あるとの発言をしたが、繰り入

れへの明確な答弁がなかった。 国民健康保険事業を取り巻く 状況は厳しいものがある。全国 的に見ても滞納世帯が20% を超える状況、川西として例外 はない。

## 制度。

それにもない料金引き

上げで払いたくとも払えない 加入者が増えた。市内25%の 世帯が加入されており、特に仕 事を持たない方の加入率が高 い制度であるだけに、市民全体 で支える必要がある。

23年度一挙に保険税引き 上げ、負担増が発生してくる恐 れがあり、一般会計からの繰り 入れをしつかりおこなうべく 要求する。

## 後期高齢者医療事業 特別会計予算：反対

### 基金がある。活用すれば 値上げしなくて済む

事業は、兵庫県が一つの広域 連合で会計、料金の改定もその 議会で決定されている。ちなみ に川西からは水田副市長が広 域連合議員に選出されている。

ことではできないが、日本共産 党議員団としての意見を反映さ せるべき議論も、討論もおこな った。

(討論要旨)

私どもは制度発足当初から、 年齢で医療に差別を設ける、高 齢者が増えれば増えるほど加 入者負担割合も増えていく制 度であるとして強く廃止を訴 えてきた。

収入がゼロの方も一生払 っ続けなければならぬ、まさに 嫉妬山に追いやる制度。 この悪政への批判が政権交 代に直接的に影響した。

いま経済状況が悪化し、昨年 と同じ時期と比べて、普通徴収 の滞納者が3倍に増え保険料 軽減措置を受けている人が昨 年から1470人増、37. 1%もいる。

今回兵庫県後期高齢者医療 54円の値上げ。平均保険料が 71.095円になり全国6番 目に高い。広域連合議会では税 の確定に際し、剰余金67億円の うちから21億円取り崩しで、 当初9.95%引き上げを、1. 5% に抑えたことは一定評 価できる。しかしあと35億円 も基金が残っており、10億円の 投入で、料金の引き上げをし なくて済む計算になる。連合議 会でもその声は上がっていた。 市立川西病院がなぜ赤字経 営に陥っているか過去をさか 員としてそのことを主張すべ きであり、市民の暮らし守る立 場に立ってこそ議員としての 役割が果たせたというもの、そ れがされずに非常に残念。

後期高齢者医療制度は速や かに廃止を要求する。

## 市立川西病院事業特別会計予算：賛成

### 国に医療制度改正を申し入れよ!

「経営」をどうするか「公営病院」でいいのかを含めて 議論の大半が集中しました。それはこの間赤字幅が増大し たこと。それに伴って累積赤字が50億円を超えたことに 起因します。

(討論要旨)

方向、社会保障費の削減、20 02年からは診療報酬の引き下 げ、臨床研修医制度の発足と、 まさに今日の医師不足、病院経 営の悪化をもたらした。いわば 時の政府が今日の状況を作っ た、政治災害だ。

政治改革、制度の大幅改善な しには個々の病院の経営改善に は至らない。診療報酬の引き上 げを国に要求すべきだ。

市トップ発言に「安心と信頼 を確保する」「不採算部門もしつ かり守る」「地域医療を守るため 市立川西病院改善へ力を尽くす」と表明された。ぜひ実施し てほしい。

以前は「経営が大変」といっ ても、不採算部門を除けば黒字 を代表とするように、社会保障 にかけるお金を減らす動きが 出てまいり、医師数を抑制する

